

平成 30 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	庄原市立東城小学校
-----	-----------

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

- ①昨年度の成果として食事マナーの定着が挙げられるので、引き続き定着に取り組む。
- ②残食率は年々減少しているが、よくかむ食材を多く使った献立の残食が多い。
- ③朝食はほぼ全ての児童が食べてきているが、主食・主菜・副菜がそろった朝食を食べている児童の割合が低いため、朝食の内容充実に取り組む。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

- ①良い食事マナーで給食を食べる児童を全児童の 85%以上にする。（担任の見取り調査）
 - ②給食の残食率を総重量の 2%以下にする。（毎日の残食量の測定）
養護教諭と連携したかむ指導の実施。（カミカミ献立の残食量の変化）
 - ③朝食レシピの紹介や調理実習を行う。（学校内や町内部会・市の取組にて調理実習を実施）
- ※①は学校評価目標に設定している。

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組 1】（テーマ） 児童が主体となって高め合う「進んで守る食事マナー」!

昨年度から引き続き、給食委員会の児童によるクイズ形式の食事マナーに関する朝会の実施や、おはしの練習コーナーを設置した。

また、担任の見取り調査項目の「はしを正しく持っている・食器を持っている・ひじをつかない・背筋が伸びている・床に足がついている」の 5 項目全てを守ることができている児童に、給食委員会が作成した表彰状を送って、進んで食事マナーを守る意欲を高めた。

さらに、学級担任と連携し、食に関する指導や給食時の学級指導、児童への個別指導も継続的に行うよう心掛けた。第 1 学年では、給食時の態度がよかった児童を表彰するなど、各学級別の取組も実施した。



おはしの練習コーナー



給食委員会作成『表彰状』



第 1 学年 給食表彰の様子

【取組2】(テーマ) よくかんで「食べる力」を育てよう!

残食率の減少にあたって、よくかんで食べる食材が多い日の残食が多いことや、本校のう歯の罹患率が高いことから、よくかんで食べる力を育成しようと考えた。

そこで、養護教諭と連携して、かむことに関連した授業(「歯の形成について」「間食の摂り方」)においてかむことの重要性を伝え、給食指導でカミカミセンサーを利用して、普段からよくかんで食べるよう意識を高めた。成果の見取りとして、よくかんで食べるカミカミ献立を指導前と指導後に実施し、残食率を比較した。

また、給食試食会では、かむことの大切さや、よくかめる調理の工夫などを紹介して、家庭でもよくかんで食べる習慣をつけてもらうように呼び掛けた。



かむことの大切さ
(給食指導)



カミカミセンサー
(給食指導)



カミカミ献立(食育の日実施)
小いわしの天ぷら等

【取組3】(テーマ) 朝食の内容を見直そう!「ひろしま朝食レシピ」の調理実習!

昨年度から実施している朝食に関するアンケートの結果、今年度もほぼ全ての児童が朝食を食べていたが、主食・主菜・副菜がそろった朝食を食べている児童の割合が低く、朝食の内容に引き続き課題があることが分かった。

そこで、昨年度作成した「東城町おすすめ朝食レシピ集」を活用した「東城町内健康教育部会だより」の作成・配付や、給食委員会で「レンジで簡単エッグ」、クラブで「梅え〜スープ」、健康教育部会で「広島トースト」等の調理実習を行った。夏休みに行われた市主催の親子クッキングでは、テーマを「朝食」にさせていただき、地元野菜をたっぷり使った朝食メニューを作成することができた。

また、校内にバランスの良い朝食を自由に考えることができるコーナーを設置した。



梅え〜スープ
(クラブ)



広島トースト
(健康教育部会)



地元野菜たっぷり朝食
(親子クッキング)



朝食作成コーナー

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

児童が「ひろしま給食」に参加する意欲を高めるために、給食委員会で「ひろしま給食」メニューを考え、メニューを応募した。さらに、朝会時や校内掲示において、メニューの特徴や、調理のポイントを紹介した。保護者へは、レシピやリーフレットの配付で「ひろしま給食」の啓発活動を行った。給食では、庄原市統一の献立（ひろしまオールスター★担々丼・庄原とれたて大根サラダ・りんご・牛乳）を提供した。

10月19日の「ひろしま食育の日」に本校で開催された第56回広島県小学校音楽教育研究大会では、クラブで試作・手作りしたカップを使って「フレーフレーサンフレぶどうゼリー」を提供し啓発を行った。

また、ひろしま給食出前講座の「牛乳の秘密」を全学年で受講したことで、牛乳に対する興味・関心が深まり、感謝をして牛乳を飲もうという意識が高まった。



庄原統一献立



出前授業「牛乳の秘密」



5 取組に対する成果と課題

【成果】

①良い食事マナーで給食を食べる児童は、担任による見取り調査において、7月は84%であったが、12月は85%と目標値を達成できた。児童が互いにほめたり、注意をしたりするなど、食事マナーを守ろうという意識を高め合っている様子が見られた。

食事マナー調査項目	箸を正しく持っている	食器を持っている	背筋が伸びている	ひじをついていない	両足が床についている	5項目集計
7月	88%	88%	73%	87%	82%	84%
12月	83%	84%	85%	91%	81%	85%

②残食率は、どの月も2%を切る事ができた。

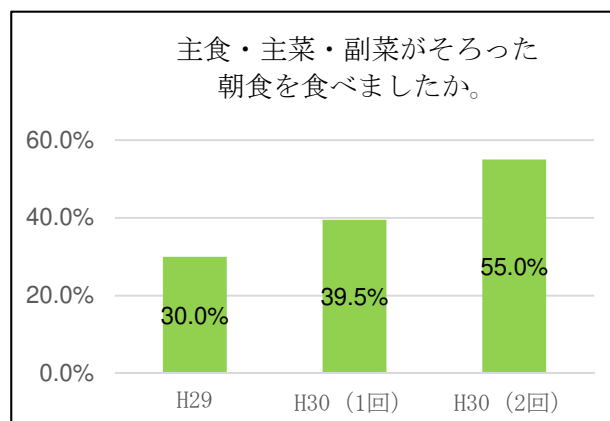
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月
残食率	1.3%	0.9%	0.5%	0.6%	0.5%	0.4%	0.4%	0.1%	0.3%

カミカミ献立の残食率も、指導後は指導前より減少した。

よくかむ食材が多い日の献立も、しっかり食べられるようになった。

カミカミ献立	指導前	指導後
残食率	2.1%	0.3%

③昨年度に引き続き、朝食に関するアンケートを実施した。昨年度より主食・主菜・副菜がそろった朝食を食べている児童の割合は、1回目が39.5%、2回目が55.0%と増加した。朝食レシピの紹介や、調理実習の効果があったと考えられる。



【課題】

- ①ひじをつかない、背筋を伸ばすなどは、意識すると正すことができるが、はしを正しく持つには時間がかかる。学校でも家庭でもはしの持ち方を長期的に指導する必要がある。
- ②よくかむ献立の残食率も減少しているが、過度に残す児童や増やす児童がいる。
- ③家庭の状況によって、主食・主菜・副菜がそろった朝食を摂ることが難しい児童がいる。

6 今後の取組に向けた改善方策について

- ①今後も児童が高め合いながら、「進んで学ぶ食事マナー」の活動を行い、給食委員会からの表彰も引き続き実施する。はしの持ち方を全児童で確認する朝会や、家庭でも正しいはしの持ち方を指導できるような資料を作成・配付したい。
- ②個人の体格差や体調によって量を調整することはもちろんであるが、本当に必要な量を知ることでもある。学級担任と密に連携をとり、児童個々に合った適正量であるかどうか少しずつ給食時に確認していきたい。
- ③児童は食べる意欲があるのに、家庭の状況によって十分な朝食を摂取できない状況があるため、児童自らが朝食を用意する力をつけさせることも必要である。引き続き朝食の大切さや、時短メニューの紹介などをして、朝食内容の充実を努めたい。また、朝食は栄養面の他に、家族との団欒・コミュニケーションの場であるということも忘れずにしっかりと伝えていきたい。